



No. 162

ティークレイク

Tea Break

東京 23 区内の事件遺跡を訪ねる

会員 三宅 正夫

戦後 70 年を機に戦争の悲惨さを物語る様子がテレビで放映されているが、日本人同志で流血の惨事を見るに至った遺跡 2, 3 を訪ねて見よう。

1. 高橋是清翁記念公園 (港区赤坂 7-2)

昭和 11 年 (1936 年) 2 月 26 日の未明、陸軍の一部青年将校らが、歩兵連隊を含む大部隊を指揮し岡田内閣総理大臣初め重臣を襲った。所謂 226 事件。そのとばしりで殺害された高橋是清翁 (初代特許庁長官) の屋敷跡 (約 2000 坪)。その北側は青山通りに面し、東西を草月会館とカナダ大使館とに囲まれている。当時の写真によると、青山通りに面する和風の門 (両側に番小屋がついている) を入ると南側に広々とした枯山水の庭、更にその奥に母屋と倉とが並んで写っている。現在の公園は青山通りの拡張で少し狭められた、とのことであるが、シイ、ヤマモモ、モチ等の大木が林立し、小さな森の中に色々の形の灯籠や文官石人が散在している。奥の一段高い丘の上に和服姿で椅子に腰かけられた翁の座像が建ち、枯山水が当時を偲ばせる。襲撃の時、翁は蒲団をはがされるまで眠っておられたとのこと (「港区人物誌」, 「増補 写された港区 (4) 赤坂地区編」参照)。母屋の一部は小金井市「江戸東京たても園」に移築されている。

港区コミュニティバス (青山ルート)「高橋是清翁記念公園前」下車。または地下鉄 (メトロ、大江戸線)「青山一丁目駅」下車、赤坂見附方向に徒歩 5 分。

一方襲撃側の将校は賢崇院 (港区元麻布 1-2) の「22 士の墓」に葬られ、渋谷税務署 (NHK の前) の一隅にも 226 の慰霊碑が建っている。兵隊落語で人気のあった柳家金語楼 (故人) も一兵卒として参加したと聞いている。何も知らずに事件に参加した兵は大部分満蒙に送られた。

筆者は当時神戸に住んで居り、現場を見聞したのではないが、友人 (当時東京府立一中、現日比谷高校の生徒) の話では、当日は珍しく前夜来の大雪。普段通り登校の途に。学校のある赤坂は物々しい気配。鉄条網が一面に張り巡らされ、着剣した銃を持った兵士が諸処に立ち、彼等に登校を阻止されたが、帰宅後ラジオで事件を知ったと。

事変は農民の貧困を救うためと言われるが、軍は罪を若い参加青年将校のみに負わせ、それらの若者を裏から煽った大者連を何故か全く不問に付した。軍は反省どころかむしろ居直り、翌年 7 月には盧溝橋事件を起して満州に手を着け、更に戦禍を中国全土に拡大、これが今次世界戦へと繋がった。

2. 首相官邸 (千代田区永田町 2-3-1)

ロンドン軍縮条約に不満の数名の海軍青年将校を含む一団が昭和 7 年 (1932 年) 5 月 15 日午後 5 時半頃上記官邸に自動車で乗りつけ、偶々在邸していた犬養首相を銃撃、死亡に至らしめた。上記官邸以外にも内大臣官邸、警察庁なども襲われたが、被害はいづれも軽微であった。世に言う 515 事件。

3. 上野公園 (台東区西端地区)

上野の山に立籠った幕府軍 (彰義隊) と官軍とが慶応 4 年 5 月 15 日 (1868) 早朝より戦闘開始。幕府軍は同日夕刻、多数の遺体を放置したまま敗走。遺体は円通寺 (荒川区南千住 1-59) の住職らによって当地で荼毘に付された。有名な西郷の銅像の後方に、玉垣で囲まれた約 25 坪の苑内中央に、一段高く大小 2 つの墓石が前後して建っている。大きい墓石は元彰義隊員により明治 14 年に造立され、表に「戦死之墓」(山岡鉄舟筆) と刻まれて

いる。小さい墓石は付近から掘り出されたもの。彰義隊員 183 名が眠る。「義」と記した観音開きの鉄扉が彰義隊に関することを物語る。

上野の山の北隅に位置する「寛永寺」の根本中堂正面に向って右方、鐘楼の左方に建つ「上野戦争碑記」（巾 1.5m、高さ約 4m の大きな石碑）も忘れてはなるまい。

「慶応 4 年辰正月伏見変前大將軍徳川公帰江戸待罪上野・・・」とハッキリ刻まれている。尚現中堂は 2 代目で、初代のものが前記 1868 年の戦で焼失したので川越（埼玉県）にあったものを移築した。

前記墓苑内には黒い門の下で両軍入り乱れての絵図がある。その門（「黒門」と言われる）は京成上野駅手前から西郷像に至る石段の登り口にあったと言われている（「江戸東京歴史人物散歩」PHP 文庫）が、現在は上記円通寺に移されて保存されている。全長約 10m、太い柱（約 20cm 角、約 4m 高さ）が 4 本。その間に格子がは

まっている。多数の弾痕が生々しい。五輪塔の形をした「彰義隊士の墓」他、新門辰五郎碑を始め多数の墓石がまるで乱杭歯のように乱立している。こんなに荒れた墓地は一寸珍しい。

上野の山は今や観光の地となり、春の花見では酔客で溢れるばかりか、年中多数の人が訪れ、奥の細道の「夏草や兵どもが夢の跡」と丸反対の光景を呈しており、当時の激戦を偲ばせる縁となるものはゼロ。前述の「戦死之墓」に近い清水観音堂に戦禍が及ばなかったというのも不思議。

寛永寺根本中堂：「上野広小路」－「亀戸」

都バス「上 26」, 「上野桜木」下車。

円通寺：「浅草雷門」－「足立区役所」（又は「千住大橋」）都バス「草 43」, 「南千住 6」下車。日光街道沿い。